

**今月の聖句**

『狭い門から入りなさい。』  
マタイによる福音書 第7章13節

- ◎10月の予定
- 5日(木) 教職員協議会
- 10日(火)・11日(水) 小学校入学願書受付①
- 12日(木) 運動会予行
- 14日(土) 運動会
- 16日(月) 運動会代休(予備日①)
- 19日(木) 教務委員会
- 20日(金) 小学校自宅学習日
- 20日(金)～21日(土) 小学校入学検査①
- 26日(木) 教職員協議会
- 27日(金) 評議員会・理事会
- 31日(火)～11月2日(木) 修学旅行(中3)
- ◎11月の予定
- 1日(水)～2日(木) 修学旅行(小6)
- 2日(木) 秋の遠足(小・中)



**ステパノまつり**

「時間をわすれてもいあがれ!」  
笑顔でやさしくおもてなせ!

塩ラーメンやカレーうどんなどの食べ物屋さんや卒業生によるドラム演奏にSAさんのお店もあり大盛況でした!



**10月の行事から**

**☆運動会**

今年も学園のグラウンドで行います。「元氣ーやる氣!! 本氣!!!」のスローガンのもと、小中とも少しずつ練習が始まっています。六年生以上は各係での準備も運動会を支える大事な活動です。今年も、外用プログラムも新しく作りかえる計画もあり、運動会を迎えるのが待ち遠しいです。毎年子ども達がしっかりと練習し、だんだんと完成度が上がっていく様子は本当に素晴らしいです。どうぞご家庭でも、当日のパフォーマンスが最高になるように応援してください。

**☆修学旅行**

小学校は十一月一日から、一泊で名古屋・大山方面を訪れます。名古屋城・国宝犬山城両城の異なる佇まいを自分達の手で確かめてきます。

中学校は、十月三十一日から「平和学習」をテーマの中心にすえ、「広島・宮島・呉」へ二泊三日の旅です。今年も広島復活教会でお祈りのときをもちます。

**☆秋の遠足**

小学校低学年はスーラシア、高学年はさみ湖リゾートプレジャーフォレストへ行く予定です。また、雨天時は、全学年で横浜の八景島シーパラダイスへ行きます。中学校は、雪印メグミルク海老名工場と横浜の三菱みなとみらい技術館の見学です。

学園長 小川 正夫

日本の秋は果物がおいしく、特に葡萄が収穫の頃で、このころ、教会や学校でよく採り上げられる葡萄園にまつわるお話です。

ある家の主人が、葡萄園で働く労働者を雇う為に、夜明けに出かけて行きました。当時は、日雇いの労働者が殆どで、朝早くから仕事を求めて、人々が街角の広場に集まり、雇い主を待っていました。主人は、雇い主を待っている者たちに声をかけ、一日につき一デナリオン（一デナリオンは当時の貨幣でローマの兵士や労働者が一日中働いて得られる標準的な賃金に相当します）の約束で労働者を葡萄園に送りました。

九時頃に広場に行ってみると、まだ何もしないで立っている人々がいたので、「あなたたちも葡萄園に行つて働きなさい、相応しい賃金を払ってあげよう」と声を掛け、その人たちも葡萄園に行つて働きました。

主人は、十二時頃と、三時頃にまた出かけていき、仕事を求めている人たちに同じようにしてあげました。

夕方五時頃に出かけていくと、まだ、広場に物憂げに立っている人たちがいたので、「なぜ、何もしないで一日中、ここに立っているのか」と訊ねると、彼等は「だれも雇ってくれないのです」と答えたので、主人は彼等に

「あなたたちも葡萄園に行つて働きなさい」といい、彼らは葡萄園に働きに行きました。

夕方になって葡萄園の主人は、監督に「労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで、順に賃金を払ってあげなさい」といいました。そこで五時頃に雇われた者たちから順に、一デナリオンずつ支払っていきましたが、順番を待っていた、最初に雇われた者たちは「最後に雇われてきたものに一デナリオン支払われたのだから、きつと、朝から一日中働いていた自分たちは、もっと多く支払われるだろう」と期待していると、夕方に雇われて働いた者たちと同じ賃金、一デナリオンを渡されただけでした。

朝雇われた者たちは、納得できず一デナリオンを手にする、主人に不平を言いました。「私たちはまる一日、暑い中を辛抱して働いていたのに、最後にきたこの連中は一時間ぐらいしか働いていません。それなのに同じ扱いをするのはなぜですか」と、不満を言いました。すると、主人は、「私はあなたに不当なことはしていませんよ。朝、あなたは私と、一日一デナリオンの賃金という約束で働いてもらつたのです。だから自分の分を受け取つて帰りなさい。最後に雇われて働いていた者たちにも、私は同じように支払ってあげたいのです」。後にいる者が先にになり、先にいる者が後になる。

これは、マタイによる福音書二〇章一節以下に記されている話で、『天国』はこのように

譬えられる』として語り継がれています。

天の国はあそこにある、ここにあるというように、目に見える場所ではなく、私たち人と人の交わりの中にあるのだという考えが、この教えを説く糸口になるかもしれない。夕刻まで仕事にありつけず、家族の今晚と明日をどう支えようかと悩んでいたかもしれない彼の喜びは大きかったと思います。

このたとえ話は、地上の私たちの生活の現実に見られる価値観とはだいぶ異なります。同一労働同一賃金。労働時間に相応しい対価としての賃金の保障。同じ仕事に携わる人たちは同等の賃金を支払われるべきだという考え、また、努力目標として、より高い報酬を期待して仕事を選ぼうとします。

一方では、年功序列、経験年数、様々な職業、そして個人の収益能力、企業への貢献度など様々な条件で人が評価され、得られる待遇には大きな差があるのが一般的です。

さて、子ども達が教育を受ける権利という立場から考えると、当然、期待される教師像があります。優れた資質、教育力を持つ人格的にも優れた指導者から、質の高い教育を受ける資格があるわけです。ベテランの先生だからとか、経験の浅い先生だからとかでなく大切なことは、神さまからの賜物、良心を磨くことです。まして、保護者から、担任の先生に恵まれなかったなど感じさせてはなりません。誰から順に手を差し伸べますか。

神に祈り手を合わせ井戸の中を覗くと  
そして何故か「シロアム」の名が

事務長 村井 信治

ステパノ学園の小学校の信仰 (Faith) と希望 (Hope) 愛 (Love) と記された棟の向かい通りに、大名家にもありそうな立派な石囲いの井戸があります。岩崎家の別荘時代から伝わる井戸ですが、今は子どもたちが落ちたりしない様にブリキで囲った木の蓋がされています。学園長と、これを活かして子ども達の喜ぶ「子どもの為の garden」を造ろうと嬉しいお話をしました。

空井戸になってしまったと云う噂もありましたので「神に祈り手を合わせ」井戸の中を覗くと満々と水をたたえた勇姿がありました。そして種々の案件の処理を学園長室で進めていると、学園長が突然、あの井戸の名は「シロアム」だと叫ばれました。ご自分でも何故この名が出てきたのか不思議がられました。でも、それはきつと…

「先生、この人が生まれ乍らに目が見えないという重荷を負って生まれてきたのは、誰の罪でしょうか。本人でしょうか。それとも親の罪が子に報いたのででしょうか」イエス様は、弟子たちに「本人の罪ではない。親の罪でもない。神の業が現れる為なのだ」とお答えになりました。何か辛い事、苦しい事がある

りますと私たちもしばしば「何故であろう」、「何が悪いのだろうか」と後ろを振り返り、くよくよし、私たちの人生の歩みがそこで立ち止まってしまいう事があります。けれどもイエス様は、苦難に遭う時「何故だろう」と問うよりも、「何の為に神様がこの試練をお与えになったのだろうか」と問うて、信仰をもって神の目的の為に生きていく事が大事なのだという事を教えて下さったのです。イエス様はご自分のつばきで土をこね、その泥を盲人の目に塗られました。そして、「シロアムの池に行って目を洗いなさい」と言われたのでした。盲人がイエス様に言われた通りにシロアムの池で目を洗いますと、何と生まれてから一度も光を感じた事のない彼の目に光が射し込んだのでありました。神様の御業は理屈によって働くのではなく、それを信じる信仰のある処に働くのです。シロアムの池もそうです。それ自体だけでは何か不思議な力があるわけではありません。神の言葉、イエス様が語られた神の言葉を信じる。そして、その言葉に従う。そこに神の御業が起こったのです。

苦難の原因は何ですか、どうしてですかと尋ねたのに対して、イエス様はそれには直接お答えにならずに、「神の業が現れる為」という苦難の意味と目的についてお答えになったのであります。自分の経験や、知識や、良識等から判断すれば、どうしてそんな事をしなくてはいけないのか、そんな事で本当に

大丈夫なのかと、疑いや不安が募る事もあるでしょう。しかし、生まれつきの盲人が「シロアムの池にいつて洗え」と言われた時も、ペトロが「もう一度沖に出て網を下せ」と言われた時も、きつとそういう人間的な不安や疑問にかられたのです。けれどもその時、彼らは自分の思いを是とするのではなく、神の思いを是として、それに従いました。そして、神の救いを受け取ったのであります。このシロアムの池について、これは洗礼を意味するのであるという解釈もあるそうです。「彼は遣わされた方という意味の池で目を洗った。つまり、キリストにあつて洗礼を受けたのでありましょう」

(参考…国府田祐人牧師のお話)

あの時、学園長はこの事が心の中をよぎったのでは…周恩来首相が田中首相を迎えた際の言葉として有名な中国の諺で「水を飲む時井戸を掘った人を忘れてはならない」と言います。今夜は学園の創始者澤田美喜先生を松坂慶子さんが演じたドラマを見て、明日は早く学校に行き学園長にお尋ねする事と致します。



前に立って、横で支えて、後ろで見守って

教諭 咲間 直人

少し前の話になりますが、毎年夏前になると学校には教職員向けの研修会の案内が届きます。多くはその案内の中から参加する研修会を選ぶのですが、今年度はその中からではなく、自分で探した研修会に参加してきました。その学びの一つに「PEP TALK」というものがありました。これはもともと監督が試合前などに選手を励ますのに使う激励のショートスピーチのことです。今では、様々な場面で人を励まし、力づけるものとして紹介されています。私も言葉には人を奮い立たせる力があり、それは紛れもない真実だと思っ

ています。多くの人は、座右の銘があるのでしょ

うか。聖書科の性分ではないですが、私は、それが主に聖句になります。聖書の御言葉一つ一つから気づかされること、我に帰ることが多くあります。行動理念となる聖句、自分を戒める聖句もあります。それに関しては何かの折にいつも心の中で祈ります。

今年になって、ある方と祈りの話をしていた時に、その方が別の方に聞いたお話を教えてくださいました。その方は、神様は前にいるのではなく、後ろにいると思うとおっしゃったそうです。この何気ない違いですが、その話を聞いてから私はふと、「私の後ろにいて見

守ってください」と祈ってみました。不思議でした。何がというと、その祈りを心の中で唱えるとなんとも言えない緊張感と高揚感が生まれるのです。

思い返してみれば、祈りは神様との対話であるので、「向き合って行うもの」と、子どもの頃からそれが当たり前と自然に思っていました。まずは今の自分と向き合って、その上で神様の方を向き祈ります。その中では当然感謝があり、懺悔があります。不安な時は「共にいてください」、「御心に適う働きができませんように」と祈ることがよくあります。「支えてください」と祈ることもあります。教会において、学校のチャペルでも祭壇は前にあり、前を向いて祈ります。ですから、神様を前にして、一度として「後ろにいて」と祈ったことはありませんでした。しかし、「後ろにいて見守ってください」という一つの言葉と、「後ろにいて背を押してください」という一つの事実が加わるだけで、絶対的な安心感と心強さが加わり、何とも身が引き締まります。心の中で自分の行いについて祈る時に、今では必ず「私の後ろにいて、見守ってください」と祈るようにしています。

なんとなく人の成長にも通じることだなと思いました。子どもの頃、自分達の前に立ち、向き合い、学ばせてくれる人が誰かしらいます。私達が成長して来れば段々とその先に進もうとします。そうすると今まで前にいた方は、道を譲り、そっと自分の傍らに寄り添い、

困った時には支えてくださいます。そして最後には後ろに立ち、まだまだ半人前かもしれない私達をそこから見守ってくれています。聖ステパノ学園に奉職してから十年になりますが、本当にまだまだだなと、この祈りを通して気付かされました。

自立する際、必要なことは後ろから見守り、「大丈夫だよ」と、背中を押してくれる存在だと感じます。見守る側は何とも歯がゆいものではありませんが、見守られる側には、それが安心であり、自信でもあります。子ども達にとつてはその存在が保護者の皆様であり、そして、学校においては私達教職員がそうでありたいと思います。また、一人の人間としては、私の前にいて、向き合ってくださいの方々と半人前の私の後ろにいて見守って下さる方々の思いに応えられるようでありたいと思います。

今年度は中二を担当していますが、中二になってから行事ごとにクラスの生徒達についても言っていることがあります。それは「今は中三が中学校全体を引っ張ってくれている、だから、その中三から学び、その上で中三をサポートするのが中二の役目だ」ということです。来年度は今の中二が中三となります。きっと先輩達から学びつつ、バトンを受け取って後輩達の前に立ち、中学校を引っ張ってくれると信じています。

桃太郎と呼ばれて

教諭 澤邊 嵩介

生まれて初めて参加したステパノまつり。私は小学一年生とおそらく同じ気持ちでまつりを迎えていました。ステパノまつりへのワクワク感と、初参加からくる幾許かのドキドキ感。そんな気持ちを抱きながら、祭り当日には一年生や普段副担任と一緒に生活している二年生と共にうちわ配りをしました。

その後、記録係としてステパノまつりを駆け回っている中、とある中学一年生の女生徒に声をかけられました。

「桃太郎先生、うちのお店にも来てよ！」声をかけられた直後はなぜ「桃太郎先生」と呼ばれたのか不思議に思いましたが、すぐに音楽会の思い出がよみがえり納得しました。今年の音楽会の中で、私はauのCMに出てくる三太郎の桃太郎に扮して、ドラムを演奏しました。その姿を見て、彼女は私に「桃太郎の格好でドラム演奏した小学校の先生」という印象を強く持っていたようです。ステパノまつりの時に、音楽会という別の行事の思い出をふり返るのはなんとも不思議な感覚でしたが、それと同時にとても温かい気持ちになりました。

私は今年ステパノの行事に参加するたび、行事の後に必ずあることを感じていきます。

それは、私を呼ぶときに「先生」と呼んでいた子どもが、行事の後には「澤邊先生」や「嵩介先生」、先ほど述べた「桃太郎先生」と、名前やあだ名で呼ぶようになっていくということです。

このように行事の前後で呼び方を変えるのは、中学生や小学校高学年などの日常で関わる場面が少ない子どもたちばかりです。

そのような子どもたちに名前やあだ名で呼ばれるようになる、以前より子どもとの心の距離感が縮まったことを感じられてうれしくなります。去年の十一月ごろに、ステパノで教育実習生として生活していた時には「先生」と呼ばれる機会すらない子どもも達だったので、「澤邊先生」と呼ばれる現状には喜びもひとしおです。

名前と呼ばれるということには、我々にとって大きな意味があります。

一九五三年に心理学者のコリン・チェリーによってカクテルパーティ効果というものが提唱されました。これはたくさんの人が雑談しているような雑音のなかでも、自分の名前や興味のある人の会話などは自然に聞き取ることが出来るというものです。

賑やかな教室の中でも、誰かに自分の名前が呼ばれたら聞こえたというような体験、皆さんにもあるのではないのでしょうか？

このカクテルパーティ効果により、名前を呼んでくれた人には意識が向きやすくなり、

「この人はちゃんと見てくれてるな」と、安心感や信頼感を抱きやすくなるそうです。

さて、ステパノまつりが無事終わった翌週。ふと、桃太郎先生と声をかけてきた女生徒に「先生の名前って知ってる？」と尋ねてみました。すると、二つ返事で「知ってますよ、澤邊嵩介先生でしょ？」と返ってきました。それを聞いて、あだ名だけではなく名前もしっかり憶えていてくれるのだな、と安心しました。

名前と呼ばれて安心する感覚は子どもにとっても同様に大切な感覚であろう。今回、「桃太郎先生」と声をかけられたことをきっかけに、改めてそのように感じました。

今、副担任として受け持っている二年生のクラスには十人の子も達がいいます。彼らとの日常の中では楽しい瞬間も沢山あれば、どうしたらいいかなと悩む瞬間も沢山あります。そのような目まぐるしい日々の中でも、しっかりと子どもたちを安心させ不安の種を取り除かなければなりません。

そのためにも、まずはしっかりと子ども達ひとりひとりの名前を呼ぶ。そのことは常に忘れずに、二学期、三学期と過ごしていこうと思います。



「小学校」九月九日土曜日は、ステパノまつりでした。天候にも恵まれて、爽やかな一日となりました。

小一 S・P

カレーうどんが、おいしかったよ。ラーメンは、たべられなかったのが、ちよつとぎんねんだなあ。かさにボールをいれたのがおもしろかった。

小二 O・T

きのうステパノまつりに、いきました。たべものは、わたあめとラーメンとやきそばとやきそばパン、あげパスタとフアンタをたべました。いちばんおいしかったのは、ラーメンとわたあめでした。あと、ありのへやでぬりえをやりました。たのしかったです。

ゆかいなあんないがかり

小三 H・R

土曜日に、ステパノまつりの小さな案内人を行いました。ぼくは、さいしよは、はずかしかったけど、後から、どんどんかけ声をかけました。多くの人がきたので、もつとかけ声をだしたので、声ががらがらになりました。

さいしよのオープニングのドラムをたたくところがすごかったし、ドラムをたたいていた人が、卒業生だったので、びっくりしました。ラーメンもおいしかったです、やきとうもろこしもおいしかったです。あとムーソング

リーカフェのコーラとフルーツポンチを食べました。

今年のステパノまつりは、去年とくらべてすごく楽しかったし、お店でいろんなことをして、お客さんがすごく楽しそうにしているところが、すごくうれしかったです。

小五 A・H

今日は、ステパノまつりをやりました。私は、初めて、客になってステパノまつりを楽しむ方ではなく、お客さんをもてなす方になりました。祭前祭とはちがつて、知らないお客さんや、本物のお金をもらって商売をするということには、最初きんちようはしていたけれど実際はお客さんが優しくしてくれたので、きんちようはなくなりました。私は、うどんにカレーのルーをかける役をしました。

私は、最初カレーを少し器につけてしまいましたが、だんだん慣れて、うまく器に入れることができるようになりました。もう少しがんばりたかった所は、前半です。なぜかという、きんちようのせいか「いらっしやいませ」が大きな声で言えなかった所です。でも一時間後、お客さんに来てもらうため、「小三で、カレーうどんやっています。」

と言いに行った時、何回も言っていたのになれて、後半からは、少しづつ声が増えてきました。けれど、中学生の教室がある所まで上り下りしていたのでつかれましたが、自分でも不思議に思うくらい楽しかったです。

来年も今年のような、サイコーなステパノまつりにしたいです。

小六 T・N

「ステパノまつり」がありました。とても良かったです。最初「6年生を探せ」は、自分からやりたいという人があんまりいませんでした。でも、私たちが声をかけて「やりませんか。」と言うと、大体の人がやってくれてうれしかったです。気づいたことがあります。それは、「最後にお菓子がもらえます。」というみんなががんばってくれたことです。おやつを用意して良かったと思います。先生ありがとうございました。百人以上やってくれてうれしかったです。ありがとう。

焼きとうもろこしは、完売してすごいと思いました。焼きとうもろこしは、門を入れてすぐに匂いがしたから、みんな買ってくれたのだと思います。来年も売れると思います。5年生の人ぜひやってみてください。応援しています。

今回の「ステパノまつり」は、お客さんが来てくださって、そして、交流も出来て、とてもうれしかったです。また、来年もがんばります。



## 「中学校」 中学生は実行委員、鉄道、ありの部屋など7グループに分かれて、活動しました。

中一 N・S

私達は森の中の教室で「moon jelly cafe」をやりました。

一学期からみんなですれず準備してきて、あつという間に当日を迎えました。

オープンをした時、しばらく誰も入ってこなかったのですが、「大丈夫かなあー」と思いましたが、気が付けば中二教室は人でいっぱいになっていました。売った食べ物、アップルパイ、揚げパスタ、フルーツポンチです。

本当はゼリーを出すはずだったけれど、作っている時におなべのこげた物が混じってしまったので出すことができませんでした。

私はお会計や、ジュースを売りました。お会計は焦ったりした時もあったけど、勉強になりました。将来、仕事をする時に役立ちそうです。今年も楽しいステパノまつりはあつという間に終わってしまいました。

中二 K・T

今年のステパノまつりは「moon jelly cafe」を経営しました。揚げパスタとアップルパイとフルーツポンチと飲み物を売りました。僕は、揚げパスタを担当しました。砂糖味と塩・胡椒味の揚げパスタを作って売りました。各味一五〇カップ位売りました。一番よく売れた味は、やっぱり塩・胡椒味でした。

最初はこんなにいっぱいあつて閉店までに全部売り切れるか心配でしたが、閉店の一時間前に全て売り切れました。残ったら食べようと思っていたのにく。残念って思っていました。でも、いっぱい売れてお客さんに喜ばれてとてもうれしかったです。また、来年もカフェを経営しようと思います。来年のステパノまつりも今から楽しみですよ。

中三 O・R

今年のステパノまつりは、この三年間で最も内容が濃いものだったと思いました。そして、最も中三らしく行動できたかなとも思います。ぼくの今年の活動は「実行委員」でした。理由は主に成績のためでしたが、顔出しパネルを設置したり、会場案内図を作ったりと自分の好きな仕事ができたとおもいました。当日は、基本的にヒマでしたがそれは事前の準備がきちりと出来ていたからであり、それに学校を案内したり見回りをしたり、お客様の大人の人に学校について聞かれたりしてとても誇らしかったです。

来年の高校でも多分文化祭はあることでしょうが、そこでも自分のベストをつくして、よりよいものにしていきたいです。

中三 H・S

私はステパノまつりで劇をやりました。ところが本番、セリフが抜けてしまいました。どうやら私は本番に弱いようです。でも、練

習はすぐ楽しくて一昨年も劇にすればよかったなと思いました。去年はステパノまつりには出られなかったから本当に後悔しました。本番の時、すごく緊張していたら友達に笑われてムカツとしました。あいつ何で全然緊張してないんだろう。でも一回目の上演では抜けてしまったものの二回目の上演では抜けてしまわなかったのが安心しました。ステパノまつりを自分がやることはもうありませんが劇をする機会はあると一度だけあります。その時にはセリフが抜けないようにがんばりたいと思います。

中三 F・H

今年のステパノまつりは、僕にとっても中三のみんなにとっても最後のステパノまつりだった。僕は、聖ステパノ学園に来たのは小一からだだったので、これで九年目だった。とても複雑な気持ちで、表向きは「最後だから楽しもう！」と言っただけだったが、内心は「あっ終わってしまうんだな」という感じだった。僕が、最後のステパノまつりでやった出し物はラーメン屋である。

担当の先生は、二榎木先生と黒澤先生で、二榎木先生は昨年ラーメン屋をやる時に色々サポートしてもらっていたので今回はとてもこころよかったです。当日は、メンバーや先生方がフル活動で働いていたのでとても大変だった。無事に二百杯を売り切ることができて安心した。



### 「ステパノまつり」まつり委員会

今年のステパノまつりは、前日の傘の必要な変わりやすい天候とはうって変わり、恵まれた天候の中開催されました。

晴れやかな空の下、「今年は地域の方々幅広くステパノまつりをお知らせしていきます」と四月に先生から伺ったとおり、本当に多くの方が来校してくださいました。

森の焼きそば屋さんでは、昨年より多めの焼きそばの材料を用意してお待ちしていましたが、予想以上の売れ行きでした。また、その焼きそばで作った焼きそばパンも好評で、あつという間に売り切れてしまいました。

それも、近所の理髪店泉脇さんから昨年よりも多くの麺を、大和ガスさんからガスを無償提供していただき出来た事だと思えます。毎年ありがとうございます。

また、サンダースホームの職員さんには、暑い中焼きそばを作っていただきました。本当にありがとうございます。

お休み処は焼き菓子、ホットドック、コーヒーなどの食べ物を販売しました。ステパノまつりのために配合されるオリジ

ナルコーヒー「ステパノブレンド」を、今年もオイコスさんにお願いで作っていただきました。そのステパノブレンドを監事の高橋恵太郎先生が淹れてくださり、入れたての美味しいコーヒーは今年も大好評でした。綿菓子では、大人から子どもまで、多くの方が来てくださり喜んでくださる姿が印象的でした。

バザーでは、S.A.の皆さんにたくさんのお品を提供していただき、多くの方がそれをもとめて来場されました。

今までなかったお店としては、お父さん主催で割り箸鉄砲・バルーンアート・傘にボールを入れる的当て、このような遊びのお店が作られました。中には夢中になって一時間くらい滞在していた子もいたようです。計画から当日の接客までお父さん達が活躍しました。どのお店も多くの方に来場していただき、忙しい中にも、多くの嬉しさ、楽しさを感じる一日でした。

今回のまつりを通してS.A.さん同士の新たな交流の場も生まれ、これからも協力して子ども達と子ども達の通うステパノ学園をサポートしていけたらと思います。

### 【表彰】

〈日本漢字能力検定〉

8級 小3 S・S

〈関東サマートロフィー2017〉

Aクラス男子 5位 中3 F・H

## STEPHEN'S NEWS

### 【創立記念礼拝・記念コンサート】

学園の創立記念日は、創立者澤田美喜先生のお誕生日です。記念礼拝では、佐藤紀明教頭が今年度で勤続25年を迎え、表彰されました。

また、礼拝後には記念コンサートが行われました。澤邊・能條両先生のピアノ演奏の後、中1N君のお母様にも演奏して頂きました。ベートーベンからショパンまで、クラシックの歴史をたどった解説も交え、素晴らしい演奏で会場は感動に包まれました。

### 【お祝い】

元澤田美喜記念館館長の鯛茂先生が、敬老の日に安倍晋三内閣総理大臣より、百歳のご長寿のお祝いをお受けになりました。誠にありがとうございます。

### 【寄贈】

日本野鳥の会神奈川支部より学園に、野鳥画を寄贈していただきました。

### 編輯集末松俊記

運動会の練習が始まりました。(な)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

〒三五〇〇三 神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

http://www.stephen-toiso.ed.jp

二〇一七年十月五日(木)発行 第214号